



発行所 東京片貝会
東京都江東区高橋5-1-313
電話 (632) 0156

緑さわやかに

春の集い (第27回) ご案内
昭昭61年5月25日(日)
東京新潟県人会館にて

その後もお変わりございませんか。また皆さんとごいっしょに、暖かいよしみを交わしつつ、楽しい一日を過ごす春がやってきました。郷里の近況―大雪の様子、四尺玉の予定、学校のこと、などなど、いろいろ聞きたいものです。懐しい友や先輩・後輩を呼びあって、心ゆくまで語りあいましょう。お待ちしております。ご都合をつけて、どうぞお出かけ下さい。

日時 61年5月25日(日) 午後一時(正午より受付)

会場 東京新潟県人会館(台東区上野一丁目13-16)
営団地下鉄・湯島、二分(千代田線)、上野広小路、六分(銀座線)、国電・御徒町、七分

会費 四〇〇〇円(料理・果物・飲み物)

返信は五月二十日までに、着くようお送り下さい。

同級会だより

温泉で若返り 3月29日
町田にトロン温泉というのがあり、駅前から送迎バスがでている健康増進に役立っている、というので、同級会を兼ねて一日清遊し

た。おかげでみんな十年若返った。五名参加。 土同志会

秋に集りたい
古稀以来集っていないので、今年十月頃には、また元気な顔を揃えて欲談したい。 昭生会

会の動き

61年新年会 1月25日
東京新潟県人会館にて2面参照
母校を励ます会 役員会 1月25日
新年会の前に、つぎのことを協議してきめた。

・秋の講演会の講師は、川上昭吾氏にお願いする。

佐渡へ、佐渡へと
昨年の還暦には、尺玉を四十発も揚げて、意気大いにあがったが今年の六月には佐渡旅行を計画している。新潟に同級生がいて、お世話することになっている由。

二六笛會

・来年度以降の計画は、つぎの総会の日に協議する。

青巒荘・花見の旅
3面参照 4月13・14日

総会についての相談
4月13日
前記の懇親会が開かれる前に、参加者で大要を協議した。本年は役員改選期にもなっているので、そのことも話し合われた。又各年次代表(正・副)も改めてお願いすることになった。

浅田壮太郎先生を偲ぶ会
片貝農協ホールにて 4月27日
この日は先生の命日で、五回忌にあたる。なお「やせかまど解説篇」の出版をも記念して開催された。

会から勝又会長、前佐藤会長が出席、また小千谷市の代表、町からは関係者が多数、全部で七十七名の盛会であった。

小千谷新聞社から取材に見えていた。

弥彦山から日本海を
六日町温泉に一泊して懇親の後翌日は弥彦神社にゆき健康祈願。更に頂上までケーブルカーで登り越後平野の新緑を羨しむ予定。
6月8・9日 昭六会

法被もできました
一年がかりで四十二歳の祭りの準備が進められてきた。秋祭りももうすぐ、華やかに花火の揚がるのを待つばかりです。 十三親会

川上昭吾先生のこと

鴻の巣出身(十三鶴会)
と實際指導に関する著書があり、教科書の編纂にも関係されている。来る十月十三日には、母校の生徒達に、講演をお願いすることになった。今からその日が待たれている。

郷土の誇る民族学資料
やせかまど解説篇 出版
学問的に高く評価されながら、難解なために、一般に親しみが薄かった「やせかまど」が、こんど浅田壮太郎先生の解説と、佐藤量八氏の訳注で、出版された。

民族学者梶井徳太郎先生(現駒沢大学々長)は、早くから本書の価値に注目されていたので、この度の出版をたいへん喜んでおられる。

片貝に縁のある方々の一説をぜひおすすめます。
総会当日に販売の予定。片貝農協及び町の書店にもある。
片貝町郷土史研究会発行、B6・三七四頁、定価千円

安達生恒先生近著
いま、食い改めるとき
片貝の産んだ、新時代の農学者である安達先生は、西に東に現代の食生活に警鐘を鳴らし続けておられる。我々の命の糧である食物に対して、教えられる点が多い。家庭婦人と言わず、万人必読の書
ダイヤモンド社刊・千二百円

楽しく、にぎやかに

寅年、新春の集い

新潟県人会館 1月26日

冬の日射しが明るく暖かい。正午過ぎから、続々と皆さんが集って下さる。新年会は黒崎勝さんの司会で始まった。

会のはじめに

まず佐藤副会長の開会のあいさつ、続いて相崎勇副会長の進行で昨午物故された安達元会長、高野三郎さんその他の方へ、黙祷を捧げる。

勝又会長が、会員の皆さんの益々の発展と健康を祈念して、年頭のあいさつの後、母校を励ます会の佐藤代表が、次のような活動状況を報告した。

1、来年で満五年を迎えるが、更に

に継続して活動を続けたい。
2、秋の記念講演会は、川上昭吾氏にお願いしたい。
3、母校に寄贈している図書は、たいへん有益に利用されている。

次に佐藤前会長から、新年会に出席の皆さんに、浄照寺から贈られた茶布巾を披露。
この度「やせかまど解説篇」が発刊されたことを紹介して、片貝の貴重な文獻である本書を、広く皆さんに読んでいただきたい、とお願ひした。

新年の宴・盛り上がる

広井顧問の乾杯で、新年会が始まる。

会場は急に活気が盛りあがる。郷里の近況、同級会の動き、在学当時の思い出など、話は尽きることがない。

楽しい福引

今春も皆さんから、福引の賞品がたくさん届けられた。三十二名から五十点近くが寄贈されたので一層豪華な内容となった。

特賞がつきつき発表されて、そのつと歓声があがる。(写真)

集いは最高潮に



嬉しいしやぎりが演奏される。肩と肩を組んで木遣りの大合唱会場いっぱいになり嬉しかった。相崎副会長が閉会のあいさつをされたが、盛りあがったふんいきで、今度は「鬼追いしかの山……」ふるさとを合唱。来賓でご出席の箕輪先生が指揮をとって下さった。

のどが潤れそうになる。黒崎勝さんの発声で、片貝会の万歳三唱を高らかに唱えて、六十一年の新年の集いも幕を閉じた。

「芳志深謝
福引賞品をご寄贈いただいた三十一名のほかに、次の9氏からお祝いをいただいた。ありがとうございます。(敬称略)
箕輪先生、佐藤彦一、広井三代次、横堀節子、丸山貴司、藤塚栄三郎、故安達ヒロ子息、故安達電作夫人、出席者(七九名)

来賓

箕輪みね先生

県人会館 田中義一氏

会員

○大正8〜15

佐藤正雄、高桑喜枝、広井三代次

神林徳次、相崎尚次、佐藤量八、

安部盛治、安達宗吾、三重堀繁蔵

星野三作、高橋清雄、安達徳太郎

山口富次



○昭和2〜10

相崎勇次、松井重治、小野塚マツ、山口ヨシ、小川茂雄、浅田喜八郎、芝五郎、吉井武二、日下部政子

浅田鉄二、藤田睦子、藤塚栄三郎

幸川とし、本田松次、相崎喜次郎

吉原彦作、小宮竹次、黒崎敬五郎

勝又 功、黒崎孝造、大内登世、

松井エウ、朝妻ヨシ、大矢幸治、

佐藤彦一、芝三四司、武藤睦子、

森本比夫、小宮良夫

○昭和11〜20

山口福次、黒崎音吉、高橋四郎、

横堀節子、浅田鉄夫、太刀川善蔵

山田チエ、佐藤道雄、佐藤敏雄、

山田敏雄、小宮幸雄、友田正雄、

五十嵐貞雄

○昭和20〜30

山岸慶昭、黒崎 正、武田ヒロ子

小野塚茂、小林 均、安藤真理子

石川登子、松岡規子、吉原 勉、

本田賢男、丸山良司、藤塚文頭、

佐藤祐一、黒崎 勝、本田正弘、

鯉島昭雄、木下 伸、荒木ムツ、

松本キイ

○昭和31〜32

藤塚 悟、吉井信三

会員の窓

安達電作氏夫人より

会報に、故人のことをいろいろお書き頂き、涙を新たにしております。無力で何事もできませんでしたが、皆様の心からなるご援助で、勤め果せることができました。故郷のことを深く感謝しております。

故人が最も愛していました故郷の地で、深い雪の下に安らかに眠っていることでしょう。

山口武一郎

昨年来体調が悪く、近くの診療所に通院していましたが、漸く快方に向つていきます。大6

松井平助

いつもお世話下さる皆様にお礼申しあげます。眼の手術の為に新年会は失礼致します。昭2

酒井ミヨ

懐かしい会報をお送りいただきありがとうございます。正月には親戚の者が集りますので、読んでもらうつもりです。今後ともよろしく。大阪交野市昭2大矢三郎

佐藤又次

暖かい皆様のお心が、いつも私を力つけて来れます事を、感謝しています。昭7

小野塚れつ子

今度定年退職して、東京駅の新幹線輸送課に勤務することになり出席できません。昭9

黒崎敬五郎氏

会報をいつも楽しみにしています。新年会には、皆様にお会いできるのを嬉しく思っています。

昭26安藤真理子

合唱団OB会の世話をしておりますので、皆様のご世話をいろいろお察ししています。昨秋は母の一周忌に花火をあげました。片貝ほどすばらしい故郷も、稀といつも思っています。昭27松岡規子

やせかまど研究のこと

中学に在学中、朝陽館のことを調べて発表したことがありました郷土の貴重な書が発刊され、感謝しています。昭31小宮善興

いま陶器製造KKのPRセンターに勤めています。昭32

安達寿光

2月16日には同級会を開きますいつも二十名集まっています。昭35小宮三郎

左記の方々より、会に対するお礼のことば、会報を楽しみにしているという便りをいただいた。

堀山すま、平沢佐和、丸山 茂、大塚文雄、相崎電次、宮沢道子、青木富代、吉原菊枝、中野みちよ、三井ミヨ、横尾ミチエ

墨書展 9回4月3〜5日

黒崎敬五郎氏が主宰している展覧会を横浜東電キヤラーで開催

安達ヒロさん(天?)は去る57年12月に逝去。ご哀悼申します。

ご支援に、感謝致します
現在、寄附金百四十二万余円に
四年目を迎えた
母校を励ます会

58年春に発足したこの会は、これまで母校に対し、記念講演会を四回、図書の手紙を三回行なってきました。

学校の生徒さんから、これに対するお礼のあいさつが度々あり、皆さんの励みになっていくことがわかり、力強く思っています。あと二年余で、当初計画された

母校を励ます会・会計報告 (自 昭和58. 5. 1)
(至 昭和61. 4. 30)

収入	¥1,513,372	支出	¥676,850
基金 (延346名)	1,422,200	寄贈図書	600,000 (3回)
利息 (含前取り分)	91,172	講演会券	40,000 (4回)
		印刷郵券	36,850

前回以後の内訳 (昭60. 11. 30~61. 4. 30)			
基金 (25名)	89,000	郵券他	1,150
利息	6,097	[現在高]	836,522]

事業に、一区切りつくことになっていきます。(五年間)

ところが、このまま終行を打つには、この活動は大きな意義があるのではないかと、という声があがってきました。

何とか継続したい、今後どう発展させていくべきか——と、いま世話人一同で検討しているところです。

どうか皆さんのご意見を、率直にお聞かせ下さい。
これまでのご支援者は三百四十六名(延べ三百四十六名)になっております。今後とも御協力をお願いいたします。

和気あいあい・天候に恵まれ

青巒荘へ花の旅

4月13・14日

遅かった春が駆け足でやってきた。うららかな日和となつて、箱根の桜が私達を呼んでいる。

一路花見台へ

一同湯河原駅に集合して、一時十分のバスで花見台に向かう。沿道の椿もいっせいに開いて、例年になく美しい。

今日は春日和の日照とあって、

前回以後ご寄附
いただいた方

- 大正 故安達電作(2) 奥様より
- 佐藤正雄(3)
- 昭和22 安達生恒(2) 勝又 功(3)
- 吉原菊枝(3) 武藤睦子(3)
- 三井ミヨ(3)
- 昭和11 山口福次(4) 岩片千恵子(新)
- 昭和21 小林 均(3) 石川春子(2)
- 佐藤祐一(2) 安藤真理子(新)
- 藤塚文頭(2) 本田繁男(2)
- 松岡規子(2) 吉原 勉(新)
- 丸山良司(新) 黒崎 勝(2)
- 本田正弘(2)
- 昭和31 藤塚 悟(2) 田口 操(2)
- 吉井信三(2) 黒崎玲子(2)
- 大阪府交野市、大矢三郎(2)
- ()の数字は回数を示す



あれ岩風呂につかる。絶え間ない谷川の音、背面にそそり立つ断崖からは、じょうじょうと音たてて白滝が落下している。
その下に、ひ鯉・ま鯉がゆうゆうと泳いでいる。まさに仙境野天風呂で、浮世のほりもいっぺんに洗われてしまった。

ちょっと打ち合せ

懇親会の前、みんなが集まる勝又会長さんから、五月総会について、いろいろ提案があった。皆さんも異議なく了承して、総会の進すもついた。が、これからは、若い層の人達に参加してもらって、会を盛りあげねば……という声が出た。まことにこころなことです。

懇親会

広井さんの乾杯で宴会が始まる酔いがかわりかけた所で、相崎勇次さん寄贈の福引が始まった。思いがけない特賞があつて、盛んに拍手が湧く。

つぎつぎに歌が出、その合間、佐藤正雄さんが日本舞踊の妙技を見せて下さる。美しい身ごなしに感歎のため息が出る。かくて



参加者(二二名)
佐藤正雄、佐藤量八、広井三三、相崎勇次、神林徳次、三重堀繁蔵、安達宗吾、松井重治、松井マサ子、相崎勇次、芝五郎、浅田喜八郎、勝又功、黒崎孝造、佐藤彦一、芝三四司、高橋四郎、太刀川善蔵、黒崎 正、黒崎 勝、浅野かよ子

あとがき

懇親は九時過ぎまで続いた。翌日もなごやかに朝食をとり、思い思いのコースを選んで、帰路についた。
いつもお世話下さる広井さんが私達と枕を並べて参加していたのは、感銘深かった。今度始めて参加された黒崎勝さんは、令兄の正さんと会を盛り上げて下さり、翌朝は五時半に起きて、共に一路会社へ向かわれた。三重堀繁蔵、松井重治さんは歩行に支障があつたのに、参加いただいた。皆有難いことである。よい天候に恵まれ、花を十分に満喫できて、近年にないすばらしい旅であった。

生活にうるおいを
餅菓子製造販売

屋号 山 長
大塚 清 (昭29・寺町)
松戸市竹ヶ花 5
(0473-62-5330)

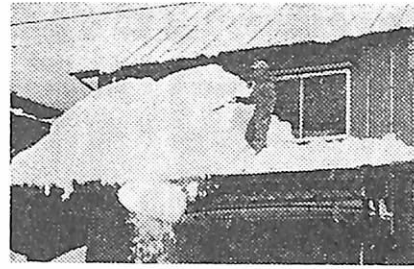
活力の源泉
精肉販売

小高 君 (昭26・屋敷)
中央区八丁堀2-19-9
(自宅 551-6666)
(店 552-2950)

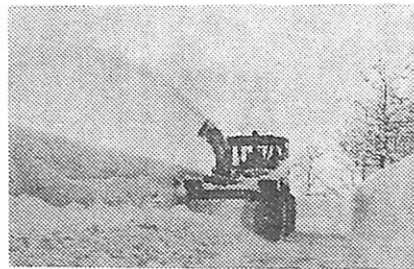
建築金物・
日曜大工用具一式
屋号 斗ゲタヤ
小林 敬司 (昭2・寺町)
江東区北砂4-40-9
(640-0468)

東京片貝会々計報告 (自 昭和60. 4. 1 至 昭和61. 3. 31)

収入 1,919,649	支出 1,919,649
前年度繰越金 473,921	総会費 299,100
別途積立金 200,000	会館払 269,100
年会費 417,600	お車代 20,000
総会費 324,000	おみやげ 10,000
新年会費 304,000	新年会費 392,000
寄付及祝儀 182,200	会館払 370,000
利子 17,368	福引費 22,000
雑収入 560	会議費 47,168
上記の通り報告致します	通信費 161,720
昭和61. 3. 31	会報費(2回)153,965
会計部長 黒崎 孝造	事務費 21,340
副部長 山口武一郎	交際費 39,000
上記は適正且つ正確であることを認めます。	印刷費 18,860
会計監査 小川 茂雄	慶弔費 25,000
大矢 幸治	振替手数料 10,440
高橋 四郎	別途積立金 400,000
	繰越金 351,056



●三年続きの大雪
今年の冬はとうなる、みんなが



空を仰いで、祈るような気持ちになる。
暮から一月頃は、むしろ昨年よ

ふるさと・は・今

り少な目であったのが、一月末から降り出した雪は、終日やむときがなかった。
降り積った雪は三米を越え、三月下旬になっても、減り目はいっこう目立たなかった。三年続きの豪雪には、みんなうんざりだった。寺町のNさん宅では、濡れたかんじきを、火鉢に乾かしておいたのに、ちょっとした油断で火がついて、あわや母屋に火がつけそうになった。消防車が七台もかけつけ町は一時騒然となった。
幸いにボヤ程度で、消しとめた一月下旬のできごとだった。
雪上バーベキューの味
神社の裏の傾斜地は、片貝スキー場として、町の冬のスポーツ施設になっている。
ここは片貝スキークラブと、ス

●母校の近況
校長先生の異動
小学校の田口 信校長先生は、道徳教育の全国発表で、活躍された。ふるさと学校でも、東京の子



秋祭りには、今年も四尺玉を揚げる段取りが進められているといふ。
●マジッククラブの交歓
町の芸能祭で、注目されているマジッククラブに、新潟から同遊の代表二名が片貝にやってきた。お互いの技術を披露して、今後の勉強を励ました。2月16日その後返礼の意を以て、片貝からも会長と本田正次さんが、新潟へ出かけていった。2月21日、ほのぼのと明るい話題です。

●春祭りの賑わい
四月二十四・五日は恒例の春祭り、最近の出店も四、五軒程度であったのが、花火で一段と有名になったのか、参道両側には、びっしりと店が出て賑わった。
花火もあがった。裏山の残雪も早く消えよ、とばかり。

キースポーツ少年団が中心になって運営しているが、日曜ともなれば、雪煙りをたてて賑わっている。
一月五日にスキー場開きをやり三月二十三日には納会があった。雪上にバーベキューの用意をし、みんな楽しんで、打ちとめをした。

寺泊中学と親善運動会
市内のスポーツ試合は勿論、郡内の中学校とも、時おり交流しているが、4月27日には寺泊まで、二・三年全員が出かけて行って、終日球技や陸上競技で親善試合をして、よい成績をあげてきた。

●夢多い・リニア
モーターカー
国鉄が開発を進めている21世紀の夢の高速度鉄道の試験線を、小千谷一柏崎(上越)50km間に誘致しようという運動が始まった。県と8市町村の合同である。小千谷市では、3月17日から十日間、この模型展を開いたところ一万二人の見学者で賑わった。

●高校分校の同窓会
小千谷高校の分校として、中学校に併設されていた定時制高校は26年から49年までであった。卒業生は三八三名という。毎年同窓会が行われ、今年も3月8日東屋を会場として、恩師を招待して催された。五十名出席。

等は世話になった。洋々文庫を作るなど、片貝会とは親しみ深かった。五年間尽された。
今度三桑市裏館校へ栄転され、新たに、長岡市黒家から柳川川先生が着任された。

●あとかぎ
長かった雪ごりの季節も、いつか過ぎて、ふるさとは今明るく活気に満ちていました。
今回の会報には、佐藤写真館、松井重治氏、県人会館の提供による写真を提供いただいた。深謝。
春の絵会も目前に迫っています。みんな集り、語り合い、互いの健在を確かめたいものです。
* * *

等が世話になった。洋々文庫を作るなど、片貝会とは親しみ深かった。五年間尽された。
今度三桑市裏館校へ栄転され、新たに、長岡市黒家から柳川川先生が着任された。

●あとかぎ
長かった雪ごりの季節も、いつか過ぎて、ふるさとは今明るく活気に満ちていました。
今回の会報には、佐藤写真館、松井重治氏、県人会館の提供による写真を提供いただいた。深謝。
春の絵会も目前に迫っています。みんな集り、語り合い、互いの健在を確かめたいものです。
* * *

●あとかぎ
長かった雪ごりの季節も、いつか過ぎて、ふるさとは今明るく活気に満ちていました。
今回の会報には、佐藤写真館、松井重治氏、県人会館の提供による写真を提供いただいた。深謝。
春の絵会も目前に迫っています。みんな集り、語り合い、互いの健在を確かめたいものです。
* * *